

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0173100355), 法人名 ((有)栄友), 事業所名 (グループホーム ゆう Aユニット), 所在地 (上川郡東川町北町4丁目9-26), 自己評価作成日 (平成28年11月22日), 評価結果市町村受理日 (平成28年12月29日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当時事業所は、大雪山を遠望でき、公園に隣接した立地で広い敷地に畑や遊歩道を設けている。利用者様の自立を支援したいという施設長の思いから、リハビリや作業療法、レクレーションに力を入れている。また、各居室にトイレを設置し、誘導によるトイレ介助を行い、自立を促している。各居室には出窓が設置され、窓の外には実のなる木を植え、その実を秋に収穫することを利用者様は楽しみにしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2015\_022\_kani=true&JigyosyoCd=0173100355-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイソ401), 訪問調査日 (平成28年12月12日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまで学んだ事を実践するには自分たちで事業所を開設するしかないとの思いから、平成16年に開設されたグループホームゆうは、「其の人らしい生活を尊重し、悠・遊・優・友として生きる」を理念とし、その人らしい生活の実現に取り組んでおり、会話や家族の話の中から意向を把握している。東川町は、大雪山の入口であり、豊かな自然に囲まれた町である。その中にあるグループホームゆうは、住宅地の中にあって広い敷地を有し、併設されている2ヶ所の高齢者施設と共に歩んでいる。敷地内には地域住民により畑が作られていたり、果実のなる樹木が植えられており、ここでは毎年利用者、家族、職員と大勢の地域住民が集い夏祭りが開催され、交流が行われている。また、運営推進会議では、高齢者認知症介護を考えるセミナーを開催し、地域住民にも呼び掛け共に学んでいる。グループホームでは施設長が看護師であり、他の併設施設の看護師や協力医と連携した取り組みを行っており、痰の吸引が出来る資格のある職員も在籍しており、医療面で安心な体制を構築している事業所である。

衣装着セミナーを開催し

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various aspects of care and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングや常日頃から理念に触れ、毎日の生活の中で職員と確認しながら話し合っている。申し送りノートを活用し、小さな気付きを全職員が共有し、細部に亘って理念に沿った実践ができるように努めている。	開設時に施設長が作成した基本理念を玄関、事務所に掲示しており、現場での職員の介護について施設長の指導の下、実践に努めている。パンフレットには理念に込めた思いを記載して事業所の姿勢をアピールしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事には、地域の方々にも参加して頂き、地域の行事にも参加している。また、施設で食する米は近所の農家から分けて頂いている。時々、色々な方から野菜等頂いている。	敷地内には併設で法人の有料老人ホームやサービス付き高齢者住宅、デイサービス等があり、その中の一画で地域住民が畑を作っており、毎年開催する事業所の夏祭りには直売所を出店したり、フリーマーケット、縁日と楽しむ事が出来、地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られた方に対して、対応方法等説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は町議員、民生委員、ご家族、地域住民、職員を構成員として二カ月に一度開催されています。会議では、事業所の運営状況や事故報告、行事案内等がなされ、活発な意見交換を通して運営に生かしています。話合った内容は記録し、各利用者様のご家族に送付して周知して頂けるように努めています	運営推進会議は概ね2ヶ月毎に、利用者代表、町内会役員、民生委員、町担当者の出席を得て、入居状況、行事報告、現況報告等を行い意見を得て運営に活かしている。全家族には議事録を送付して情報共有に努めている。また、高齢者、認知症を考えるセミナーや夏祭りを開催し、委員以外にも家族や多くの地域住民の参加を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員とは運営推進会議や町役場に出かけ、ホームの相談やサービスの質の向上についても話合っている。	町担当者とは毎月の利用状況報告や、運営推進会議、地域ケア会議で指導や助言を得て運営に役立っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穩者に対する見守りや対応の仕方についての話し合いを徹底して、玄関施錠を撤廃し、身体拘束防止に取り組んでいる。	施設長、管理者、職員は身体拘束廃止に向けて、外部研修や本年度より設置した虐待防止委員会で事例について取り上げ毎月の定例会議で検討し、身体拘束のない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を受けており、職員間に於いても見過ごされることがないように、また、研修で学んだことを会議等で報告し、認識度を深めることによって防止に努めている。平成28年4月1日より、虐待防止委員会を設置し、より深い理解を得られるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、学んだことを活かせるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明やサービスの内容を説明し、理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、また、重要事項説明書に苦情窓口を記載しています。また、ご家族の来所時や運営推進委員会でご家族の方からの意見や要望をお聞きし、利用者様からは日常の関わりの中で、言葉や言動を把握して、運営に反映させています。	利用者家族の意見や要望は、面会時の会話の中や毎年開催する家族会、運営推進会議、各行事開催の中で把握し、運営に反映させている。利用者の日常の様子は毎月の新聞でもお知らせしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションや毎月のスタッフ会議、定例会議で職員の意見や提案を聞き、サービスの向上につなげている。	職員の意見や提案は毎月のスタッフ会議や定例会議で把握し、運営や介護に反映させている。職員は利用者の居室や環境衛生の担当の他、行事、新聞発行を毎月交代で担当し運営を担っている。	会議時に伝達講習を行っているが、更に年間を通じた職員研修体制の構築を期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入により、各職員の得意とする分野や成果等を把握し、意欲を持って働いてもらえるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や知識、技術レベルに合せた外部研修を実施し、サービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や包括連絡会議に参加し、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始時、利用者様も緊張や不安が強く、職員との信頼関係も築けていけない為、施設内で迷うことのないよう常に目を配り声かけを多くし、安心できる職場である事を確認して頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申込があると出向いて面接し、ご家族に対しても何か困っているかを聞き信頼関係を深め、必要な時期に入所できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の希望を伺い、必要とされている事に対し、できる限りの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様、職員が自ら助け合う家族的雰囲気大切にしている。入居者様は豊かな人生経験、知識を多く持ち、職員が教えられる事が多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節行事に参加して頂き、ご本人と一緒に過ごして頂きながら、悩みや要望を聞いている。変わった事があれば電話連絡をして、対応等を話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃のコミュニケーションの中で、馴染みの場所の把握に努め、ドライブに訪れたりしている。以前住んでおられた家の近所の面会もある。	利用者一人ひとりの馴染みの把握に努めている。嘗ての住宅を訪問する希望があり、花見の時にバスで訪問をして思い出が無くなる事のない様に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく暮らしていけるように、職員が間に入りコミュニケーションを取っている。また、孤立しないように、それぞれの利用者様の得意なことや特徴を把握することに努め、同じ趣味などを持った利用者様同士の関係作り等にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談や依頼があれば適切に対応する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中での希望、意見はケアの中で取り組み、本人本位で対応している。	利用者の思いや暮らし方の希望は生活歴やアセスメント、日常の会話の中で把握し実現できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしをご本人やご家族より聞き、ホームの暮らしに生かしている。入居されるまで、サービス利用の経緯や有無も聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、昼、夕の申し送り、一人一人のケース、記録、バイタル、排泄等、心身の状態を確認し、一日の変化等を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議や定例会議で職員の意見やご家族、ご本人の要望を取り入れ、介護計画作成者が介護計画を作成すると共にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っています。	介護計画は概ね6か月ごとに、計画作成者がモニタリングを行っている。毎月のケア会議で利用者のケース検討を行うと共に、利用者、家族の希望や要望を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人一人の日々の状態や状況を観て、職員間で話し合い、常に利用者様の立場に立って考え行動している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズも違えば、支援内容もプラン内容も違うため、個々の利用者様に合った柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会に参加して頂き、諸問題を検討し交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、利用者様、ご家族の方の意向を尊重した上で、かかりつけ医への受診を支援している。また、かかりつけ医との連携を図り、緊急時でも適切な医療が受けられる。	利用者の高齢化に伴いほとんどの利用者が内科医の往診を受けているが、他科への受診は事業所対応で行い、状況の変化があった時にはその都度電話で家族に様子を知らせている。施設長が看護師であり、又、敷地内のサービス付き高齢者住宅の看護師の協力を得て、胃漏等、重度の利用者も受け入れられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には、利用者様のかかりつけ医に相談を行っている。また、利用者様が体調不良の場合は、職場看護師が適切な処置や病院受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に主治医に相談し、指示を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の方には、当事業所の「看取り」についての姿勢は伝えている。	入居契約時に事業所の姿勢を説明し了承を得ている。看取り時にはプランに明記し、家族、医療機関と連携の下、希望に沿った支援に努めている。職員の研修をミーティング時に行い、知識を深めながら取り組んでいる。	事業所の姿勢は説明しているが、指針等の書類作成はこれからとなっている。書類を整備し更なる体制構築に繋げて行く事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全職員が受講しており、発生時には対応マニュアルを基に動くことを確認している。また、AEDも完備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回実施し、昼間だけではなく、夜間想定での訓練も行われているが、災害時の地域協力体制は調整中です。救命救急講習は全員受けていて、スプリンクラーは平成22年10月設置。	年2回の避難訓練を夜間想定で実施している。地域住民の協力は運営推進会議等で呼び掛けている。隣接するサービス付高齢者住宅や有料老人ホームの職員の協力も得られる様になっている。サービス付高齢者住宅に発電機があり、停電時の対策としている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りに他利用者様がいる時は、声かけの仕方に注意している。居室には、声かけを行ってから入るなどプライバシーを確保している。	施設長、管理者、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、その人らしい暮らしの実現に取り組んでいる。呼び掛けはさん付けを基本としながら利用者に合わせた対応となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者様に応じ、自己決定できるような会話を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が希望を言いやすい雰囲気や日頃から作れるように実施しており、何が食べたいか？など聞き、職員と共に調理している。また、季節に応じて野外へ花見、ドライブへ行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は出来る方はご自分で選ばれ、不具合な場合は援助している。美容、理容は二カ月に一回毎訪問理容を利用し、髪型はご本人の意向を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付け等、ご本人の意見を尊重し、職員と共に行うことによって、楽しい時間になるように支援している。	調理専門職員が利用者の好みや季節感を取り入れたメニューを作成し、献立表はリビングに掲示している。昼食調理と夕食の下準備は調理専門職員が行っているが、朝食と夕食は職員が調理し、準備や後かたづけに利用者も参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の既往歴や健康状態、摂取量を記録し、バランスの良い食事を提供している。水分においても、夏季はこまめな水分摂取を心がけている。また、食事が思うように摂れない利用者様に対し、エンシュア等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけが必要な人、介助が必要な方を把握し、毎食後、おやつ後に実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時誘導を心がけている。夜間と日中ではオムツやパット等の使用量を減らす等の調整もしている。	各居室にトイレ、洗面台が備え付けられており、自立している利用者にも排泄状況をさり気なく尋ね、利用者全員の排泄記録を作成し、タイミングを把握した支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品や繊維質の食物を取り入れたり、時間を見つけて軽い運動や体操を行ったりしている。それでも便秘が解消されない場合は、下剤等薬物療法でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に合わせ、ゆったりと入浴して頂いている。時々入りたがらない方もいるので、ご本人の気持ちを聞き、入りたい日に変更している。	2日置き(週2~3回)の入浴支援を行っている。利用者の状況に合わせて、リフト浴にしたり、希望で同性介助や入浴剤を使用する等、希望に沿い、入浴が楽しめる様に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩、日向ぼっこ、レク等に参加してもらうが、夜間、精神症状が強く眠れない時は、専門医に相談しながら薬を服用されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は、職員が見られる所に保管、医師の指示通り服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常、掃除、洗濯物たたみ、食事作り等全てにおいて、出来る作業を分担して行うことで、利用者様自身の役割が確認できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や散歩の他に花見ドライブ等の機会を増やしている。利用者様の気分転換が図れ、季節感を肌で感じることができるため、積極的に支援している。	季節の外出は花見や紅葉を見に森林公園等へバスでドライブをしている。日常の外出は天候の良い日に行っており、外気浴や散歩を事業所周辺で行い地域の方々と挨拶や会話を交わし交流している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で年賀状を出したり、電話の要望があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度等の空調管理の配慮は怠らないようにしている。また、季節感が感じられるよう室内を装飾したり、花を飾る等の工夫をしている。	共用空間の廊下、一体となっているリビング、食堂は広く配置され、吹き抜け天井、大きな窓と開放感のある造りとなっており、職員によって温湿度が管理されている。また、リビングには季節のものが飾られ、楽しく、快適な生活が送れるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では利用者様の安全や安心感を十分に確保するために、物の配置や利用者様の配席に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からタンスや布団、生活用品を持って来ている。居室にはお孫さんの結婚式やご家族皆さんで撮った写真等が飾ってある。	居室には洗面トイレ室、ベット、クローゼットが設置されている。利用者は使い慣れた筆筒や椅子等の家具を持参し、家族の写真や絵を飾って自宅同様居心地良く生活できるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫はしているが、利用者様ご本人が「職員にしてもらおう」という意識が強い方もいる。残存能力を発揮してもらえるように努めていきたい。		